



学校だより

ながや

令和5年 11月30日
横浜市立永谷小学校
校長 神田 敏之

「言葉の暴力を減らすには何ができる？」

校長 神田 敏之

今年度、5、6年生の有志で「永谷いじめ防止会（通称：NIBK）」が立ち上がりました。これまで、上永谷中学校、永野小学校の代表者と集まり話し合いをし、人を傷つけるチクチク言葉を減らし、フワフワ言葉など相手の人に伝わりやすい言い方に変えていくことが必要と意見がまとまりました。また引き続きあいさつ運動などをしていくことも決めました。

およそ一か月 NIBK の子どもたちが中心になってあいさつ運動をしました。昇降口前だけでなく、教室の近くにも立つ人を決めて、積極的にあいさつをしました。教室の近くでもすることにより、教室内にもあいさつが飛び交うようにしたいという工夫です。

活動終了後に高学年にアンケートを取りました。「あいさつ運動をして教室での雰囲気はよくなりましたか」という問いに、半数は変わらなかった、半数弱がよくなった、と答えました。「学校生活の中でチクチク言葉は減りましたか」の問いには、半数が変わらなかった、三分の一が減ったと答えました。

アンケート結果も受けて NIBK 会議が開かれました。意見としては、学校生活が楽しくなれば、友達に会いたくなる、ハッピー言葉が増えれば笑顔になる、その他には、困ったことがあったら先生に何でも言う、ということが出ました。現状として陰口を言われるということがあり、いやなことを相手に伝えたいけれど伝えられないということが出ました。がまんするとストレスになる、つらくなる、という話の中から先生にどうしてほしいかを考えました。先生たちに見守ってもらいたい、先生たちにもっと話を聞いてもらいたい、先生は忙しそう、先生と子どもと一緒に遊べるくらい近くにいるとよいのでは、という話が出ました。私たちにとってはドキッと話す話です。私たちに余裕がないように見えて、話しかけづらいとのこと。11月末には、担任と子どもがミニ個人面談の時間を取りました。今後もいろいろな機会に子どもと話ができる時間をとっていきたく改めて思います。

自分たちにできることも考えました。子どもたちがいじめを見かけたらすぐに先生の報告すること、クラスの仲が深まるように、みんなのできる遊びの紹介を書いてクラスに配るということが出ました。また、先生たちの代わりに話を聞くということも出ました。どちらか一方の味方になるのではなく、お互いの言いたいことをしっかりと引き出す役割にするそうです。こちらは児童支援専任の先生が開く聞き方の講習会に参加し、認定を受けた人が活動をするそうです。

いじめはいけないということを誰もが知っています。私たち大人も何度も子どもに向けて話をしています。しかしなかなか改善されないことに子どもたちも課題を感じています。今回の子どもたちの取組が第一歩になって、いじめのない永谷小学校をつくり上げていきたいと思っています。